

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

補益剤 補陰剤 17

かしゃだいぞうがん  
河車大造丸

滋陰補腎・瀉熱潜陽・寧肺止咳

紫河車 1 個・亀板 60 g・黄柏 45 g・杜仲 45 g・牛膝・麦門冬・天門冬各 36 g・  
生地黄 75 g (砂仁・茯苓と煮て、茯苓を除く)・人参 30 g  
蜜丸にし 1 日 3 回 9 g ずつ服用する。

扶寿精方

<主治>

腎陰虚陽亢及肺

骨蒸潮熱、咳嗽、るい瘦、舌質が紅絳、舌苔が少、脈が細数などを呈す。

<病機>

腎陰虚陽亢で肺に波及した状態である。

腎陰虚 (真陰虚を伴う) のために内熱陽亢し、午後～夜間に生じる体内から蒸されるような強い熱感 (骨蒸潮熱)、手足のほてり、頰部紅潮、不眠、盗汗などがみられる。精不足で全身に陰血を供給できないので瘦せる。腎陰不足で肺陰も不足し、慢性の咳嗽、呼吸困難、少痰がみられ、甚だしければ虚火の灼傷により痰に血が混じる。舌質が紅絳、少苔、脈が細数は、陰虚内熱を示す。腎陰虚が本で、労熱咳嗽は標である。

<方意>

本方 (河車大造丸) は陰虚陽亢の労熱咳嗽に対する常用薬である。

大補精血の紫河車を主薬にし、滋補腎陰、潜陽の亀板で補佐しており、両薬は真陰を滋補する。さらに、補腎益精の生地黄・杜仲・牛膝で滋陰を強める。清熱瀉火の黄柏は肝腎の相火を清瀉し、亀板と共に陽亢を鎮める。以上が本治である。潤肺寧嗽、清肺の麦門冬・天門冬で肺陰を潤し、生津益気の人参がこれを強化する。砂仁・茯苓の配合は、滋膩による滞気を防止し、人参と共に中焦運化を高める目的である。全体で陰虚陽亢を鎮め肺陰を滋潤し、寧肺止咳する。

<参考>

本方 (河車大造丸) は、滋補清潤の剤であり、脾胃虚弱や痰湿留滞のあるものには適さない。

加減法

骨蒸労熱が顕著であれば、青蒿・知母・牡丹皮などを加える。

陰虚が甚だしければ、玄参・白芍・五味子などを加える。